

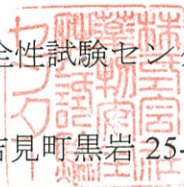
試験報告書

抗菌・抗ウイルス剤のモルモットにおける皮膚感作性試験

試験番号: N21142-3

株式会社薬物安全性試験センター 吉見研究所

埼玉県比企郡吉見町黒岩 25-1 (〒355-0166)



試験委託者の名称および所在地

株式会社姫路鍍金工業所
兵庫県姫路市北条北河原 978 (〒670-0947)
試験委託責任者: 中筋 隆

試験施設の名称および所在地

株式会社薬物安全性試験センター 吉見研究所
埼玉県比企郡吉見町黒岩 25-1 (〒355-0166)
運営管理者: 高橋 寛人

試験責任者

山本 健太郎 (株式会社薬物安全性試験センター 第一研究部)

本試験は下記の者の責任において実施されたものであり、本報告書は、その結果を正しく記載したものである。

2021 年 9 月 3 日 山本 健太郎

1. 表題

抗菌・抗ウイルス剤のモルモットにおける皮膚感作性試験

2. 試験番号

N21142-3

3. ガイドライン

本試験は、「SIAA 品質と安全性に関する自主規格」(一般社団法人抗菌製品技術協議会 定款 諸規定 K07, 制定日 平成 10 年 6 月 24 日) および OECD GUIDELINE FOR TESTING OF CHEMICALS, Test Guideline No.406 (Adopted: 17 July 1992. Corrected: 14 June 2021.) を参考に実施した。

4. 試験の目的

本被験物質の皮膚感作性についてモルモットを用いて検討し、安全性を評価した。

5. 試験期間

動物入荷日:	2021 年 06 月 22 日 (予備試験)
	2021 年 07 月 13 日 (本試験)
予備試験開始日:	2021 年 06 月 28 日
感作開始日:	2021 年 07 月 20 日
惹起日:	2021 年 08 月 10 日
最終判定日:	2021 年 08 月 13 日
試験終了日:	2021 年 09 月 03 日

6. 動物の適正使用について

動物の飼育, 取り扱いおよび安楽致死は、「動物の愛護及び管理に関する法律」(昭和 48 年 10 月 1 日 法律第 105 号, 最終改正 令和元年 6 月 19 日 法律第 39 号), 「動物の殺処分方法に関する指針」(平成 7 年 7 月 4 日 総理府告示第 40 号, 一部改正 平成 12 年 12 月 1 日 環境省告示第 59 号, 平成 19 年 11 月 12 日 環境省告示第 105 号) ならびに「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準」(平成 18 年 4 月 28 日 環境省告示第 88 号, 最終改正 平成 25 年 8 月 30 日 環境省告示第 84 号) および「株式会社薬物安全性試験センター 動物実験倫理規程」(平成 20 年 9 月 1 日, 最終改正 令和元年 11 月 11 日) に従い, 適正に実施した (DSTC 動物実験倫理委員会承認番号: IACUCN21142-3)。

7. 試験資料の保存

試験報告書作成後 3 年間とする。保存期間満了後は試験委託者に連絡の上, 廃棄とする。

8. 要約

抗菌・抗ウイルス剤の皮膚感作性について、モルモットを用いて Guinea Pig Maximization Test 法で検討した。

試験動物として、予備試験 4 匹，感作群 10 匹，対照群 5 匹の合計 19 匹を用いた。

感作群の皮内感作は，感作開始日 (0 日目) に a: フロイントの完全アジュバント (FCA) と生理食塩液の等量乳化物，b: 被験物質の 50 w/w% 液 (媒体: 生理食塩液)，c: 被験物質の 100% 液と FCA の等量乳化物を頸部皮膚に 0.1 mL × 2 か所皮内投与した。接触感作は，7 日目に 2 × 4 cm 大のリント布に被験物質の 100% 液を 0.2 mL 含浸させ，皮内投与部位に 48 時間閉塞貼付した。対照群の感作は，生理食塩液および注射用水を用いて同様に処置を行った。なお，6 日目に感作処置部位に 10% SDS のワセリン混合物を開放塗布し，7 日目にエタノールで除去した。

惹起は，21 日目に感作群および対照群ともに被験物質の 100% 液，30 および 10 w/w% 液 (媒体: 注射用水) を 1.5 × 1.5 cm 大のリント布に 0.1 mL 含浸させたものを，側腹部に 24 時間閉塞貼付して行った。

皮膚反応の判定は惹起貼付除去 24 および 48 時間後に行った。

その結果，試験期間中の一般状態に異常はみられず，体重も増加を示した。

皮膚反応 (貼付除去 24 時間後) は下記のとおりであった。

投与試料	惹起濃度 (w/w%)	感作群		対照群	
		陽性率 (%)	平均評点	陽性率 (%)	平均評点
抗菌・抗ウイルス剤	100	0	0	0	0
	30	0	0	0	0
	10	0	0	0	0

以上の結果より，本試験条件下において，本被験物質に皮膚感作性は認められなかった。

9. 材料および方法

9.1. 被験物質および試験材料

9.1.1. 被験物質

名称: 抗菌・抗ウイルス剤
純度: 0.88 ppm
ロット番号: 製造日: 2021-05-20
常温における性状: 無色透明
比重: 1
pH: 7
有効期限: 6 か月
保管条件: 室温
取扱注意事項: マスクおよび手袋を着用する。

9.1.2. 試験材料

名称: (1) フロイントの完全アジュバント
(以下 FCA と称する. DIFCO LABORATORIES, Lot No. 0189600)
(2) 生理食塩液 (日本薬局方, 株式会社大塚製薬工場, Lot No. K0C00)
(3) 注射用水
(日本薬局方, 株式会社大塚製薬工場, Lot No. K0C79, K0K72)
(4) エタノール (試薬特級, 富士フイルム和光純薬株式会社,
Lot No. ESJ5755)
(5) ドデシル硫酸ナトリウム (以下 SDS と称する: 和光一級,
富士フイルム和光純薬株式会社, Lot No. LER1363)
(6) ワセリン
(生化学用, 富士フイルム和光純薬株式会社, Lot No. PTG5440)
保管条件: 室温

9.2. 試験系

9.2.1. 種, 系統および微生物学的統御レベル

モルモット, Hartley 系 (Slc: Hartley), SPF

9.2.2. 入荷時週齢, 性別および動物数

予備試験: 4 週齢, 雌 4 匹

本試験: 4 週齢, 雌 15 匹

9.2.3. 供給源

日本エスエルシー株式会社 中伊豆支所

9.2.4. 試験系選択理由

本動物は感作性試験に多く使用されているため。

9.2.5. 識別方法

油性インクを用いて被毛の一部を着色することにより識別した。各ケージには識別ラベルを貼付した。

9.2.6. 検疫・馴化

予備試験は入荷後 6 日間、本試験は入荷後 7 日間飼育環境に馴化させ、その間に検疫を行った。

9.2.7. 投与開始時週齢

5 週齢

9.2.8. 動物の群分け

本試験動物は、検疫馴化期間終了後に健常で皮膚に異常がないことを確認し、体重を測定して、群分けソフト (StatLight#11 群分け, Yukms Co., Ltd.) を用いた乱塊法により、感作群 10 匹および対照群 5 匹に振り分けた。なお、予備試験動物は 2 匹 × 2 群に振り分けた。

9.2.9. 飼育環境

飼育室名:	検疫馴化期間: コンベ 4 号室 試験期間: コンベ 2 号室
温度:	設定値 23°C (許容範囲: 20 ~ 26°C)
相対湿度:	設定値 50% (許容範囲: 30 ~ 70%)
換気回数:	12 回/時間
照明時間:	12 時間/日 (午前 6 時点灯, 午後 6 時消灯)
ケージ:	ステンレス製ケージ (W350 × D400 × H230 mm, 株式会社夏目製作所)
給餌器:	バスケット型ステンレス製給餌器
架台:	ステンレス製自動水洗架台 (株式会社夏目製作所)
収容:	検疫馴化期間および試験実施期間ともに、予備試験は 1 ケージに 4 匹, 本試験は 1 ケージに 5 匹ずつ収容した。
飼料:	固型飼料 LRC4 (オリエンタル酵母工業株式会社) を自由に摂取させた。
飲水:	町営水道水を 5 μm カートリッジフィルターに通過させ、さらに紫外線照射装置により殺菌したものを自動給水装置により自由に摂取させた。

9.2.10. 飼料の分析

オリエンタル酵母工業株式会社からロットごとに分析した分析報告書入手し、適正なものであることを確認した。

9.2.11. 飲水の分析

一般社団法人埼玉県環境検査研究協会に依頼し、水道法水質基準 (1 回/年) および浄水水質検査 (1 回/月) を行い、適正なものであることを確認した。

9.2.12. 清掃および消毒

飼育室は両性界面活性型殺菌消毒剤 (ニッサンアノン, 日油株式会社) を用いて、休日を除く毎日清掃および消毒した。

9.3. 試験方法

Guinea Pig Maximization Test 法に準拠して行った。

9.3.1. 群構成および動物数 (動物番号)

予備試験: 皮内投与群 2 匹 (No. 1, 2), 閉塞貼付群 2 匹 (No. 3, 4)

本試験: 感作群 10 匹 (No. 1~10), 対照群 5 匹 (No. 11~15)

9.3.2. 投与試料の調製

被験物質の有姿を 100% とし, 下記の濃度に用時調製した。

9.3.2.1. 予備試験

9.3.2.1.1. 皮内投与

被験物質の 50, 30, 10, 5, 3, 1, 0.5 および 0.3 w/w% 液 (媒体: 生理食塩液)

9.3.2.1.2. 閉塞貼付

被験物質の 100% 液, 50, 30, 10, 5 および 3 w/w% 液 (媒体: 注射用水)

9.3.2.2. 本試験

9.3.2.2.1. 感作

- a: FCA と生理食塩液の等量 (v/v) 乳化物
- b: 被験物質の 50 w/w% 液 (媒体: 生理食塩液)
- c: 被験物質の 100% 液と FCA の等量 (v/v) 乳化物
- d: 生理食塩液
- e: 被験物質の 100% 液
- f: 注射用水

9.3.2.2.2. 惹起

g: 被験物質の 100% 液, 30 および 10 w/w% 液 (媒体: 注射用水)

9.3.3. 予備試験

9.3.3.1. 皮内投与

投与部位は除毛した側腹部とし, 投与試料を 0.1 mL ずつ投与した。

9.3.3.2. 閉塞貼付

FCA 乳化物処置動物 (閉塞貼付 1 週間前に後背部左右対称 4 か所に 0.1 mL ずつ皮内投与) を試験に供した。投与部位は除毛した側腹部とし, 各投与試料を 1.5 × 1.5 cm のリント布 (ピップ株式会社) に 0.1 mL 含浸させて, 無浸透性絆創膏 (ブレンダーーム, 3M) を用いて投与部位に 24 時間閉塞貼付を行った。密着性を良くするために無浸透性絆創膏の外側に更に粘着性スポンジ絆創膏 (マイクロフォーム, 3M) と粘着性伸縮包帯 (シルキーテックス 5 号, アルケア株式会社) で固定した。なお, 投与部位による反応を平均化させるために, 投与部位は動物ごとに変化させた。

9.3.4. 本試験

9.3.4.1. 皮内感作

9.3.4.1.1. 投与部位

除毛した頸部背側皮膚 (Fig. 1) とした。なお, 除毛は電気バリカンを用いて感作日までに行い, 感作日にシェーバーにて剃毛した。

9.3.4.1.2. 投与試料

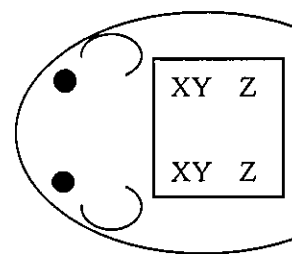
- a: FCA と生理食塩液の等量 (v/v) 乳化物
- b: 被験物質の 50 w/w%液 (媒体: 生理食塩液)
- c: 被験物質の 100%液と FCA の等量 (v/v) 乳化物
- d: 生理食塩液

9.3.4.1.3. 投与方法

感作開始日 (0 日目) に, 次表に従って各投与試料を 0.1 mL ずつ左右対称に皮内投与した (但し, X と Y の投与間隔を縮める)。

< 投与部位および投与試料 >

皮内投与部位	X	Y	Z
感作群	投与試料 a	投与試料 b	投与試料 c
対照群	投与試料 a	投与試料 d	投与試料 a



<Fig. 1>

9.3.4.2. 接触感作

9.3.4.2.1. 投与部位

除毛した皮内投与部位 (Fig. 2) とした。なお, 感作日にシェーバーにて剃毛した。

9.3.4.2.2. 投与試料

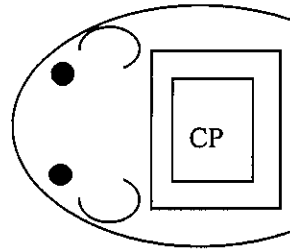
- e: 被験物質の 100%液
- f: 注射用水

9.3.4.2.3. 投与方法

7日目に、感作群は2×4 cmのリント布に投与試料 e を0.2 mL 含浸させて投与部位に貼付し、無浸透性絆創膏および粘着性伸縮包帯 (シルキーテックス 3 号) を用いて48 時間閉塞貼付を行った。対照群は投与試料 f を感作群と同様に投与部位に48 時間閉塞貼付を行った。なお、閉塞貼付24 時間前に10%ドデシル硫酸ナトリウムのワセリン混合物約0.5 g を皮内投与部位に開放塗布し、7日目にエタノールを用いて除去後に閉塞貼付を行った。

< 投与部位および投与試料 >

投与試料貼付部位	CP
感作群	投与試料 e
対照群	投与試料 f



<Fig. 2>

9.3.4.3. 惹起方法

9.3.4.3.1. 惹起部位

除毛した側腹部皮膚 (Fig. 3) とした。除毛は電気バリカンを用いて惹起日までに行い、惹起日にシェーバーにて剃毛した。

9.3.4.3.2. 投与試料

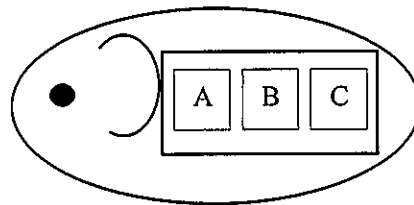
g: 被験物質の100%液, 30 および10 w/w%液 (媒体: 注射用水)

9.3.4.3.3. 投与方法

21日目に、感作群ならびに対照群ともに1.5×1.5 cmのリント布に投与試料 g を0.1 mL ずつ含浸させ、無浸透性絆創膏を用いて投与部位に24 時間閉塞貼付した。密着性を良くするために無浸透性絆創膏の外側を更に粘着性スポンジ絆創膏と粘着性伸縮包帯で固定した。投与部位による反応の差を平均化させるため、次表のとおり動物ごとに投与部位を変えた。

< ローテーション >

動物 番号	投与試料貼付部位		
	A	B	C
1, 11	100%	30 w/w%	10 w/w%
2, 12	10 w/w%	100%	30 w/w%
3, 13	30 w/w%	10 w/w%	100%
4, 14	100%	30 w/w%	10 w/w%
5, 15	10 w/w%	100%	30 w/w%
6	30 w/w%	10 w/w%	100%
7	100%	30 w/w%	10 w/w%
8	10 w/w%	100%	30 w/w%
9	30 w/w%	10 w/w%	100%
10	100%	30 w/w%	10 w/w%



<Fig. 3>

9.3.5. 判定方法

予備試験の皮内投与は投与 24, 48 および 72 時間後、予備試験の閉塞貼付ならびに惹起は貼付除去 24 および 48 時間後に下記の基準で判定した。

< 紅斑・痂皮形成 >

- 0: 紅斑なし
- 1: ごく軽度の紅斑 (かすかに認められる程度)
- 2: 明らかな紅斑
- 3: 中等度から強い紅斑
- 4: 深紅色の強い紅斑に軽い痂皮形成 (傷害は深部に及ぶ)

< 浮腫形成 >

- 0: 浮腫なし
- 1: ごく軽度の浮腫 (かすかに認められる程度)
- 2: 軽度の浮腫 (周囲と明らかに区分可能)
- 3: 中等度の浮腫 (1 mm 程盛り上がっている)
- 4: 強い浮腫 (1 mm 以上盛り上がり, 周囲にも広がる)

9.3.6. 評価方法

各判定時における紅斑・痂皮形成および浮腫形成の合計評点が 1 以上を陽性反応とし、陽性率を求めた。感作群の陽性率と対照群の陽性率の差を感作率とし、感作性評価区分¹⁾は下記基準に従い、最高感作率で評価を行った。ただし、感作率が 0% の場合は感作性なしとした。また平均評点についても算出した。

< 陽性率 >

$$\text{陽性率 (\%)} = (\text{陽性動物数} / \text{動物数}) \times 100$$

< 感作率 >

$$\text{感作率 (\%)} = \text{感作群の陽性率} - \text{対照群の陽性率}$$

< 平均評点の算出方法 >

$$\text{平均評点} = \text{紅斑・痂皮形成および浮腫形成の合計} / \text{動物数}$$

< 感作性評価区分 >

Sensitization rate (%)	Grade	Classification
0 ~ 8	I	Weak
9 ~ 28	II	Mild
29 ~ 64	III	Moderate
65 ~ 80	IV	Strong
81 ~ 100	V	Extreme

9.3.7. 一般状態の観察および体重測定

一般状態は毎日観察し、体重は感作開始日、惹起日、最終判定日に測定した。

9.3.8. 試験終了後の動物処理

CO₂ 吸入法により安楽致死させた。

10. 試験結果

10.1. 予備試験

皮内投与の結果を表 1、閉塞貼付の結果を表 2 に示した。

10.1.1. 皮内投与

被験物質の 50, 30, 10, 5, 3, 1, 0.5 および 0.3 w/w% 液を投与したところ、最高評点として 50 w/w% 液で評点 1 の紅斑がみられ、30 w/w% 以下の濃度では、皮膚反応はみられなかった。

これらの刺激域値濃度および委託者との協議により、皮内感作濃度は 50 w/w% とした。

10.1.2. 閉塞貼付

被験物質の 100% 液、50, 30, 10, 5 および 3 w/w% 液を投与したところ、いずれの濃度においても、皮膚反応はみられなかった。

これらの刺激域値濃度および委託者との協議により、接触感作濃度は 100%、惹起濃度は 100%、30 および 10 w/w% とした。

10.2. 本試験

皮膚反応の総括を表 3, 皮膚反応評点 (個体別) を表 4 に示した. また, 貼付除去 24 時間後の皮膚反応を写真 1, 2 に示した.

10.2.1. 100%液

感作群および対照群ともに, いずれの判定時においても皮膚反応はみられず, 陽性率 (平均評点) は0% (0) であった. したがって, 感作率は0%となった.

10.2.2. 30 w/w%液

感作群および対照群ともに, いずれの判定時においても皮膚反応はみられず, 陽性率 (平均評点) は0% (0) であった. したがって, 感作率は0%となった.

10.2.3. 10 w/w%液

感作群および対照群ともに, いずれの判定時においても皮膚反応はみられず, 陽性率 (平均評点) は0% (0) であった. したがって, 感作率は0%となった.

10.3. 体重および一般状態

試験結果を表 5 に示した.

試験期間中, 一般状態に異常はみられず, 体重は増加を示した.

11. 考察および結論

抗菌・抗ウイルス剤 の皮膚感作性について Maximization Test 法に準拠してモルモットを用いて検討した.

試験動物として, 予備試験 4 匹, 感作群 10 匹, 対照群 5 匹の計 19 匹を試験に供した.

感作群の皮内感作は被験物質の 50 w/w%液, 接触感作は被験物質の 100%液とし, 対照群は生理食塩液および注射用水を用いた. 惹起は被験物質の 100%液, 30 および 10 w/w%液とした.

その結果, 感作群および対照群ともに, いずれの惹起投与試料においても皮膚反応はみられず, 感作率は0%となった.

試験期間中の一般状態に異常はみられず, 体重も増加を示した.

以上の結果より, 本試験条件下において, 本被験物質に皮膚感作性は認められなかった.

12. 参考文献

- 1) Magnusson, B.; Kligman, A.M.: The identification of contact allergens by animal assay, The Guinea Pig Maximization Test method, J. invest. Derm. 52: 268-276, (1969).

表 1 皮内投与の刺激性評点 (予備試験)

動物 番号	皮膚反応 (紅斑・痂皮 / 浮腫)																							
	投与24時間後								投与48時間後								投与72時間後							
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
1	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0
2	1/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0

① 50 w/w% ② 30 w/w% ③ 10 w/w% ④ 5 w/w%
 ⑤ 3 w/w% ⑥ 1 w/w% ⑦ 0.5 w/w% ⑧ 0.3 w/w%
 (媒体: 生理食塩液)

表 2 閉塞貼付による刺激性評点 (予備試験)

動物 番号	皮膚反応 (紅斑・痂皮 / 浮腫)											
	貼付除去 24 時間後						貼付除去 48 時間後					
	①	②	③	④	⑤	⑥	①	②	③	④	⑤	⑥
3	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0
4	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0

① 100% ② 50 w/w% ③ 30 w/w%
 ④ 10 w/w% ⑤ 5 w/w% ⑥ 3 w/w%
 (媒体: ②~⑥注射用水)

表3 総括

群	項目	貼付除去24時間後			貼付除去48時間後		
		100%	30 w/w%	10 w/w%	100%	30 w/w%	10 w/w%
感作群	平均評点	0	0	0	0	0	0
	陽性率 (%)	0	0	0	0	0	0
対照群	平均評点	0	0	0	0	0	0
	陽性率 (%)	0	0	0	0	0	0
感作率 (%)		0	0	0	0	0	0

表 4 皮膚反応評点 (個体別)

群	動物番号	皮膚反応 (紅斑・痂皮 / 浮腫)					
		貼付除去24時間後			貼付除去48時間後		
		100%	30 w/w%	10 w/w%	100%	30 w/w%	10 w/w%
感作群	1	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0
	2	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0
	3	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0
	4	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0
	5	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0
	6	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0
	7	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0
	8	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0
	9	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0
	10	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0
平均評点		0	0	0	0	0	0
陽性率 (%)		0	0	0	0	0	0
対照群	11	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0
	12	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0
	13	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0
	14	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0
	15	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0	0 / 0
平均評点		0	0	0	0	0	0
陽性率 (%)		0	0	0	0	0	0

表 5 体重および一般状態

群	動物 番号	体 重 (g)			一 般 状 態 (日)			
		感作開始日	惹起日	最終判定日	0~5	6~11	12~17	18~24
感 作 群	1	307	424	426	-	-	-	-
	2	312	448	450	-	-	-	-
	3	316	471	484	-	-	-	-
	4	318	440	446	-	-	-	-
	5	320	466	469	-	-	-	-
	6	321	450	455	-	-	-	-
	7	321	496	499	-	-	-	-
	8	324	468	472	-	-	-	-
	9	336	515	523	-	-	-	-
	10	346	506	510	-	-	-	-
対 照 群	11	305	439	454	-	-	-	-
	12	318	450	456	-	-	-	-
	13	321	467	475	-	-	-	-
	14	327	469	471	-	-	-	-
	15	336	502	523	-	-	-	-

-: 異常なし

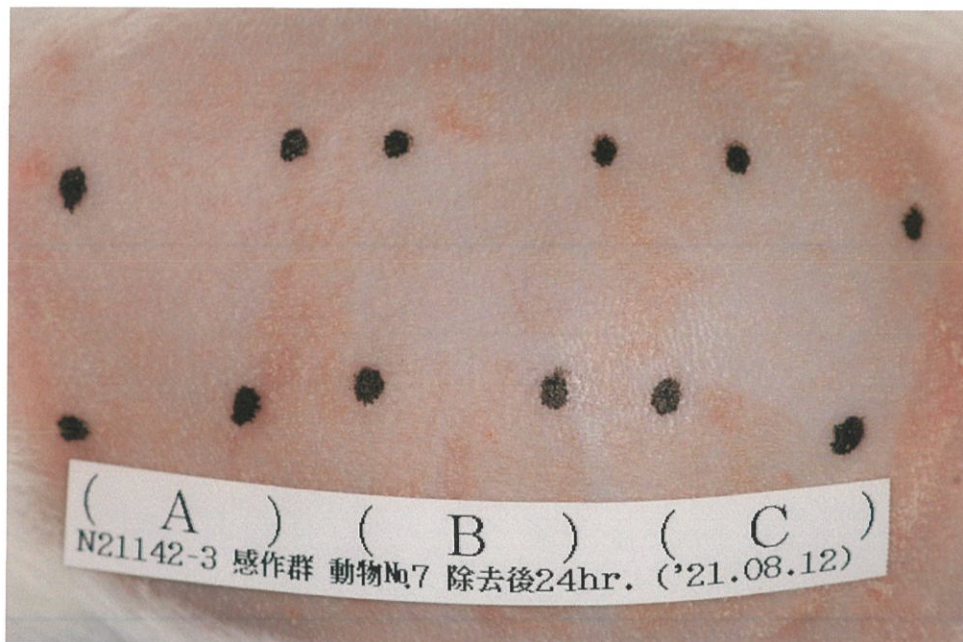


写真 1 感作群 動物番号7 貼付除去24時間後

(A) 100%液:	紅斑0	浮腫0
(B) 30 w/w%液:	紅斑0	浮腫0
(C) 10 w/w%液:	紅斑0	浮腫0



写真 2 対照群 動物番号12 貼付除去24時間後

(A) 10 w/w%液:	紅斑0	浮腫0
(B) 100%液:	紅斑0	浮腫0
(C) 30 w/w%液:	紅斑0	浮腫0